

今回の研修では、仙台ではなかなかできないことをたくさん経験することができました。私はこの研修でなにか新しい発見や将来の参考になることがあれば良いなと思い参加しましたが、本当に充実した2日間になりました。

1日目のディレクトフォースでは、様々な職業の方のお話を伺いました。はじめは少し緊張していましたが、実際に質問をして、お話をすると、20分はあっという間でした。海外支援の話や、高層ビルの建築、海外留学の話など、内容は多岐に渡り、自らの視野を広げられる素晴らしいディスカッションとなりました。また、講話では、新しいものを作り出すときの抵抗感や楽しみなどを聞くことができ、様々な視点からのものづくりを感じ取ることができました。

企業訪問では、私たち23班は四季株式会社を訪問しました。四季株式会社は劇団四季を束ねている会社で、65周年を迎えます。当時の演劇界を嘆いて発足した劇団四季は、お客さんが楽しめる、感動するものを作ろうと「文化の東京一極集中の是正」「演劇活動による経済的自立」「演劇の社会生活への復権」を理念に活動しています。これらの理念の下、もう一度人々の生活とともにある、楽しめる演劇界を作ることを目指し、ツアーや劇場を作り東京にいなくても演劇を見られるようにしています。また、社員の給料や会社のお金はすべて公演で得た収入で賄っています。その収入で小学6年生を対象としたこころの劇場や、小学生対象の美しい日本語の話し方教室などの社会奉仕も行っているそうです。私自身も小学生のときにこころの劇場を見たことがあるのですが、とても壮大で綺麗で、それを全国で社会奉仕として行っているのが凄いなと思いました。

制作についてのお話もたくさん伺いました。まず、演目の制作期間についてです。オリジナルのものは、構想からだとき長ときは2~3年で、作り始めると1年になるそうです。海外のものを公演するときも1年は必要で、長いと3年はかかるそうです。稽古は大体3ヶ月間行います。

演技は、特にロシアで盛んである演技論も取り入れ、自分のフィルターを通して役になりきる、ということが演技だそうです。また、劇団の俳優はほとんどが専属の俳優で構成されています。

音楽は、元からあるものの権利を買ってそのまま公演するレプリカ公演、台本と音楽、など一部の権利を得て公演するローカルライセンスでは忠実に再現します。完全オリジナルの場合は、新しく曲を作ります。多くは作曲家に依頼し、その後どうしていくかを考えるそうですが、劇団の中のメンバーが考えることもあるそうです。

脚本は、元からあるもの使うこともありますが、オリジナルのものは、劇団四季文芸部

というところで書くそうです。書くときは、力のある人が集まって書いたり、劇団にいる人からアイデアを公募したりします。脚本は、原作を決め、書き下ろし、会社の重役でチェックをし、作品化となります。そして、台本構成、作曲依頼、演出家の選定が行われます。その後、プランナーを決定し、チームを作って仕上げます。チームに劇団外の人に入ってもらったこともあり、元劇団四季の著名な方も多そうです。もちろん、若いスタッフの中からの選出もあります。また、脚本の変更については、場合によって、脚本の人が直したり、意見交換をして直したりします。歌詞も同様ですが、外国語の翻訳である場合は、アクセントや意味などに注意しないといけないので、海外の人と日本の担当の人が話し合ったりするそうです。具体的には、意味を合わせながら必要なのは残して音が多い部分を省略したり、音の数を合わせたりします。衣装、小道具、ヘアメイクなども見せていただきましたが、担当のスタッフの皆さんが全て手作りしていました。小道具は特に真近で見ることができ、実際にライオンキングで使われているものも見ることができました。

今回の訪問では施設見学もさせて頂くことができました。四季株式会社は本館と南館に分かれていて、2つは地下通路でつながっています。本館には団員用の個人練習のための部屋や、稽古場がたくさんあり、私たちが見学をしたときも、歌声が聞こえたり、廊下でダンスの練習をしている団員の方がいたり、館内の多くで練習をしている様子が見られました。図書室には今までの公演の台本や社員や劇団員からの寄贈本、舞台に関係した書籍、こころの劇場を観た小学生からのお礼の手紙などが置かれています。また、亡くなった劇団四季関係者の方にお線香があげられるスペースがありました。劇団四季に関するポスターや装飾品なども置いてあります。また、社員、劇団員用の食堂、ジム、ホテルの一室のようにになっているゲストルームなどがあります。南館には、小道具の制作室、音楽担当のスタッフの部屋、照明スタッフの部屋など、制作スタッフの部屋が多くありました。もちろん南館にも練習用の施設があり、休憩できるスペースも設けられています。また、館内では「劇でたくさん資源を使う分資源を削減する」ということで、節電が徹底されていました。また、ゴミ箱も分別できるものが置いてありました。施設を見て、団員や社員の皆さんのことを考えた構造だなと感じました。

私がこの企業訪問で印象的だったのは、働いている人たちの支えあい、意識の高さ、そして表情です。劇団四季では、新しい役者さんは入ってから1年間新しい役者さんは無料でレッスンが受けられたり、食堂の値段が先輩の社員の皆さんに比べ安くなっていて、先輩皆さんが負担してあげる形になっていたりするそうです。新しく入ってきた人を支えて、その人たちがまた次の代の人を支えるというこの形は、ほかの会社ではあまりないと言っていました。なんだかあたたかい感じがするシステムだなと思いました。また、見学中に通った廊下に、劇団四季の俳優の皆さんのための心得が貼ってあったのを見ました。そこからは、よりよい舞台を作るための、厳しくも力強い思いを感じました。全員で練習を積み、お客さんを楽しませるんだという意識が凄いなと思いました。そして、ヘアメイク

の担当の部屋を見学していたときに、担当の方が舞台用のカツラの手入れをされていて、お話をしてくださいました。仕事が楽しいと言っていたときのその人の笑顔が本当に楽しそうでした。自分の仕事を楽しいと思えるのは本当に素敵なことだなと思います。

この企業見学で私は、新しいものを生み出し、人を楽しませることの大変さや充実感を、強く感じることができました。四季株式会社で働いている皆さんが、どうしたらよりよいものを作り出せるかを考えて、たくさん努力をしているからこそ、あれだけ素晴らしい舞台が作りだせるんだなと思いました。また、会社も働く人のことを考えて作られていて、こういう会社が増えればいいなと思いました。

1日目の最後はOB・OGとの懇談会でした。地元から東京に出てきて良かったことや、大学でどんなことをしたらいいのか、勉強方法（どうしても苦手な教科への対策）など、いろいろなことを聞きました。先生たちに相談するのとも、親に相談するのともまた違った感じで参考になりました。私はまだどこに進学するのか定まっていなくて、その理由のひとつに地元から出るのが不安だということもあったので、実際に東京の大学に通っている先輩の話が聞いてよかったです。

2日目は東大見学でした。私は東大の見学は初めてだったし、都内の電車移動も1日目だとぶん人生で初めてだったのでこの日の移動も少し不安でした。だから最初の集合場所の東大駒場キャンパスに着けたことでほっとしました。駒場キャンパスでびっくりしたのは図書館の大きさです。私は本が好きなのであんなにたくさん本があるのはうらやましいなと思いました。

このキャンパスではワークショップが行われましたが、自分の進路について考えるような内容で、いざ書いてみると、やっぱり漠然としていて、もう少ししっかり考えてみないといけないなと思いました。ワークショップと同時に行われた東大生の皆さんのプレゼンテーションも楽しく、とても参考になりました。

その後、駒場キャンパスから移動して本郷キャンパスに行きました。安田講堂前集合でしたが、集合場所のまわりがとても綺麗なレンガ造りの建物ばかりだったので、なんだか外国にいるような気分になりました。本郷キャンパスは駒場キャンパスよりもさらに大きい感じがしました。こちらのキャンパスでは東大生との個別相談会と模擬授業が行われました。個別相談会では、大学での生活の話や独り暮らしについて、勉強の仕方や気分が乗らないときの対処法などの話を聞きました。これらは私たちの質問に基づいた話なのですが、どれも丁寧に答えてくださり、とても励みになりました。また、もうひとつ思ったのは、さまざまな都道府県から皆さんがこの大学を選んできているんだなということです。それだけ魅力的な大学なのだなと思いました。

模擬授業は法学部の模擬授業を受けました。私は政治経済、倫理などの社会分野が好きなので興味深かったです。やはり少し難しく感じましたが、質問に答えていただける時間

もあり、とても有意義なものだったなと思います。東京大学は学校自体もとても大きく、人も多いので、自分のものの見方や世界を広げるには絶対いいだろうなと思いました。

2日間の研修は、本当に行ってよかったなと思えるものでした。私は県外に出てこのような体験をしたことが少なかったので、新鮮な刺激をたくさん受けることができました。私が思っていたよりも、世界は大きくて、いろんなことを考えて目指している人がたくさんいるんだなと改めて実感しました。今回の経験を、これからの自分の選択に生かしていきたいなと思います。本当に楽しく、充実した2日間でした。